

うちやま
内山遺跡(本発掘調査B)

所在地 豊田市秋葉町10丁目
(北緯35度06分46秒 東経137度17分74秒)
調査理由 矢作川鶺の首地区水位低下対策事業
調査期間 令和7年12月～令和8年3月
調査面積 1,631㎡
担当者 樋上 昇・川添和暁・柳原麻子



調査地点(1/2.5万「豊田南」)

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局・豊橋河川事務所による矢作川鶺の首地区水位低下対策事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、令和7年12月から令和8年3月にかけて実施した。調査面積は計1,631㎡で、調査区は遺跡範囲中央に当たる。



令和7年度 内山遺跡調査区位置図

立地と環境 内山遺跡は、拳母盆地の南の「鶺の首」と呼ばれる矢作川の狭窄部右岸の丘陵上に位置する。標高は、調査区中央で60mを測る。当地は、内山1号墳をはじめとする内山古墳群の範囲にあたり、内山遺跡の範囲内には以前から内山2号墳の所在が伝えられている。

調査の概要 基本層序は、上からI層：腐植土10～20cm)、II層：灰色砂質シルト層(10cm)【江戸時代後期以降遺物包含層】、III層：灰黄褐色粘質シルト層(5～10cm)【旧耕作土および遺物包含層】、IV層：赤褐色粘土層および黄褐色礫層【地山】である。



古墳時代管玉出土状況

縄文～弥生 先史時代の遺物は、III層から、土器片や石器(石鏃・剥片・擦切具など)が出土している。縄文時代晩期から弥生時代にかけてのものと思われる。

古墳 本遺跡の主体となるのは古墳である。調査前から墳丘の確認できているところが2カ所、石室床が別に1カ所見つかっており、計3カ所は確認できた。溝から須恵器片のほか、石製管玉の出土も確認された。

近世 調査区南東側には、地山を削り整地した平坦面が調査され、区画溝のほか、寛永通宝の出土があった。陶器には小型壺などもあり、祠などが所在していた可能性もある。また、調査区北東側には近世後半以降に宅地が所在していたと考えられる。II層の堆積が良く残っており、陶磁器・キセルのほか、鉄滓がまとまって出土した。(川添和暁)